

エピソード31

保護者懇談会で保護者たちが出した意見は…。



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験があります。
エデュサポネットのファシリテーターです。



小学校の先生が、新卒の時の
経験をお聞きします。

私は、新卒のとき中学年を担当しました。
初めての子どもたちとの出会いです。

私は前年度担任の田中先生から引き継いだ
学級経営や授業の流し方をお手本にし、
いい調子でスタートできたと思いました。





初めての学級担任は、
うまくいっていたのですね。

係活動を決めるとき、子どもたちは「今まで
こうだった」と自主的に活動しました。

学習では、基本的なノートの書き方や、
発言の仕方は今まで通り、と授業を進める
ことができ、順調だと思っていました。





保護者との初めての出会いはどうでしたか。

私は学級が順調だと思っていたので、初めての保護者懇談も緊張しませんでした。

自己紹介の後、学級の説明では「授業の仕方、子どもへの接し方、田中先生と同じにしています。学級はとてもうまくいっています」と自信を持って話しました。





保護者の反応はどうでしたか。

最初のお母さんが「田中先生の時とは全然違う。子どもは勉強への意欲をなくしているし、学校が面白くないと言っている」と話されると、次々に「家庭学習もやらなくなっただし、ノートの使い方も違う」「先生は同じだと言うけど、どこが同じなんですか」と懇談は大炎上で終わりました。





保護者のみなさんの話を聞いて
先生はどうしたのですか。

私はどうしていいかわからないくらい
動揺し、何とか懇談会を終わらせました。

教室にいと、学年の先生が来てくれ、
話を聞いて慰めてくれました。その後、
田中先生にも話を聞いてもらいました。





田中先生はどんな話をしてくれましたか。

「それは先生が悪いよ。新卒の先生が、新学期早々クラスがうまくいってます、なんて自信満々に言ったら反感を買うよ。子どもたちの気持ちにも気づかず、上から目線で何もわかってない、と怒られても仕方ないな」と笑って話してくれました。





先生は、田中先生のことを
どう受け止めましたか。

当たり前と言えば当たり前のことだ。
新卒教師として、保護者と対応する
心構えが間違っていたと痛感しました。

何より、子どもたちの本当の気持ちに
全く気づけず、うまくいっていると思って
いたことに、大きなショックを受けました。





田中先生は、アドバイスを
してくれましたか。

- ・ 数日後の家庭訪問では、子どものことを
教えてください、という態度で臨むこと。
- ・ 子どもの良い点を具体的に伝えること。
- ・ 懇談では、保護者の考えを聞く態度で臨
むこと、この3点を今でも覚えています。





この経験から、先生は
どんなことを考えましたか。

田中先生の「保護者も、先生が全部悪い
とは思っていない。きっと気づいてほしい
と思ったんだよ」という言葉を考えました。

これからは、子どもや保護者ときちんと
向き合って声に耳を傾け、教えてもらい
ながら一緒にやっと思いしました。





なみちゃんの一言

- 話してくれた先生は、この経験が、今でもとても印象に残っていて、若いときに気づけてよかったと話していました。
- 辛いできごとや失敗も、先輩の先生や保護者のアドバイスを真摯に受け止めることで、その後に生きる経験となるのですね。

お・し・ま・い



イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)